

# 敬天新聞

敬天新聞 創刊号

平成8年11月20日発行

敬天新聞社  
白倉康夫

〒335 埼玉県戸田市美濃町2丁目2番地  
TEL 048 (421) 0356  
FAX 048 (422) 4914

定価 1部 980円

FAX情報紙

「敬天千里眼情報」随時発行

## 敬天・国土啓蒙とは

人間は、如何に力を持とうとも、自然の摂理や配剤にはかなわない。常に学問をして大をおそれ、人を愛する心境に到達することが必要なのです。  
また、国家にとって有能な人材を「国土」と言います。国土は敬天の思想から天啓を討つことを

られた方の英霊が祭つてあを得れば国を得、を實踐する靖國神社に公式参拝もできない。安っぽい権力闘争などしている場合は、中国人と日本人は死生観が違ふのだから堂々と述べた命を賭してこの国を守るといふ気概が必要なのだ。政治家だけがではない。  
この国をリードしている行政は政治家の劣化を奇貨となし、その支配権を増殖し、憲法の精神、その官権を行使するに至り、経済界の自己企業の経営防衛に専らまう寛大な気持ちを持つて、またキリスト教には、急いで社会資本の蓄積に貢献することを怠り、また多額の公益法人が私企業化して営利を費するのを許容し、宗教法人が何兆円もの財を蓄積し、更に財を増殖するため都市銀行が力を貸し、その営業を推進しても無視され、その宗教法人が多数の政治家を擁して立法府行政府を支配し、政教癒着を以て放置しているのだから、これが日本の宗

## 祝辞

今こそ真の教育改革を！

細亜民族同盟 会長 佐野一郎

真の国土は 何処にありや

安藤 昇

男の怒りに私憤と義憤の二つあり。  
「我」を生かし、見栄面子で怒るは積りにして匹夫の勇なり。  
「我」を殺し、普通の正義に怒るは積りにして匹夫の勇なり。  
私憤は生命を賭すを与へ、義憤は生命を賭すを以て怒るは積りにして匹夫の勇なり。  
戦後五十余年経ってもアジア諸國に謝りつづける日本、我がの先人達はそんな愚劣な道に歩んで来たのか。否、正しい歴史教育がなかったから、即ち、戦後の東京裁判の誤りから日本は駄目になってしまったのである。

# 創刊の辞

社主 白倉康夫

ハーバード大学エズボアハル教授の言う「チャパン・アズナン・マウ」になつたのである。この驚べき復興の原動力こそ、今の日本人が忘れてける精神文化の数々であり、集約されれば大和魂なのである。  
敬天新聞の体には非力な日本人の体力に比べれば、確かに日本人の体力は非力な日本人の体力が全る。その日本人が全る。において互角がそれ以上に

学ぶのです。  
今の日本はまだ一度も来たことのない外国人から見れば、この国は「シバング」に見えるかも知れないけど、一度住んで外国人からは「一度見ればさほどでもない富士の山」(遠くから見たら美しい富士山も近くに近づくたは結構)と多量に枯木も多量に「見抜かれてしまふ」。  
しかし子供達ばかり責められませんが、大人の社会でその改めなければならない難問が山積されてからでう。政治を望むことは、

## 「国賊は討て！」

### 混乱の日本に国土出でよ！



戦えるのは独自の文化・伝承を言う前にまず社会の秩序は親の義務だ。これを放棄してはならない。親孝行、勤王精神、節制、忠義、礼儀、和魂があったからと私は、この言葉も、つい三十年前、頭までは当たり前のように実践されていたことなのだと、とも沢山ある。しかし日本に、  
「敬天新聞」の体には非力な日本人の体力に比べれば、確かに日本人の体力は非力な日本人の体力が全る。その日本人が全る。において互角がそれ以上に

このように日本国の現状を打破する一助になれば、「国賊は討て」の旗印の下、先陣諸氏の御指導を仰ぎながら、ある時は右に立つ矢の如く、またある時は水鏡石を穿つ精神で白悪に戦いを挑んでゆく覚悟であります。  
それから毎週水曜日夕方五時三十分より「白倉康夫の天下御免」をやらせておきます。機会がありましたら是非一度、足御座り戴きます。この国の水鏡の平和と発展を願って創刊の挨拶にさせていただきます。皆様への御支援を心からお願い申し上げます。

白倉康夫、敬天新聞の創刊おめでとう。  
機関、大蔵官僚、金融、財・官・教が一体となつて国民の血税を貪り私利私欲に走るいま、熱血の漢が「国土」の筆跡を以てこれに弾劾するのは誠に痛快な。信する処にたがう。今後の益々の発進を祈念致します。

たぎる血潮が 匂う紅葉

伊達治一郎

白倉康夫社主とは、花の



新橋駅頭にての街宣活動

「我」を生かし、見栄面子で怒るは積りにして匹夫の勇なり。  
「我」を殺し、普通の正義に怒るは積りにして匹夫の勇なり。  
私憤は生命を賭すを与へ、義憤は生命を賭すを以て怒るは積りにして匹夫の勇なり。  
戦後五十余年経ってもアジア諸國に謝りつづける日本、我がの先人達はそんな愚劣な道に歩んで来たのか。否、正しい歴史教育がなかったから、即ち、戦後の東京裁判の誤りから日本は駄目になってしまったのである。